

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.239

2025. 9. 1

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

**「税金は暮らしの拡充に 戦争準備の軍拡は中止して、
憲法、平和、いのち、くらしを守る政治への転換を求める請願署名（略称＝大軍拡反対
請願署名）」に、ご協力ください！** ◇署名用紙が不足の場合は、岩手県生協連までご連絡ください。

あの日を忘れず、未来へつなぐ平和の願い —被爆・戦後80年原爆死没者慰霊事業を開催—
8月6日～9日、岩手県被団協は岩手県と盛岡市共催で、慰霊事業を行いました。



6日は原爆死没者追悼式を実施し、被爆者や遺族、市民ら約100人が参加しました。県被団協三田健二郎会長は、「2021年に核兵器禁止条約が発効され、昨年は長年の活動が評価された日本被団協がノーベル平和賞を受賞した。核兵器廃絶に残された力を注いでいく」と挨拶し、政府に核兵器禁止条約への参加を求めました。

遺族代表の下斗米直子さんは、「5月に亡くなった母は17歳で被爆し、九死に一生を得て命を繋いだ。『拾った命』と言いながら、子育ての傍ら被爆体験を語るなど、地道に行動してきた姿が思い起こされる」と思い出を語りました。そして、「『今ある平和』は、その裏に志ある人々のたゆまぬ努力があってこそ。ノーベル平和賞受賞は日本被団協のみならず、時代が核兵器に対する警鐘を鳴らしている証であると言える」と、母の思いを受け継ぐ誓いを述べました。



このほか、達増拓也知事、内館茂盛岡市長、原爆で犠牲になった元宝塚俳優の園井恵子を語り継ぐ会幹事の佐々木光司岩手町長の追悼挨拶や、第27代高校生平和大使の畠山史子さんの平和への誓い、南昌みらい高校音楽部による「さとうきび畑」「長崎の鐘」などの合唱が行われました。

また、この期間は盛岡市中央公民館をメイン会場に、様々な企画を実施。被爆体験を語る会や平和トークセッション、被爆体験について語る集い、原爆写真や園井恵子のパネル展のほか、平和について考えるきっかけづくりとしていわて生協が企画した、平和のアニメ上映や絵本展示・平和かるた大会・折鶴ストラップ作りなどの「親子ピースアクション」、琴や女声コーラスによる「夕すずみコンサート」、岩手県生協連が企画した盛岡市内戦跡バスツアーなどを行いました。

被爆・戦後80年の今年、お年寄りから若者まで幅広い年齢層の市民延べ1,600人の方々に来場・参加いただき、戦争の悲惨さと平和の大切さを考え合うことができました。（県被団協事務局）



戦跡バスツアーでは、東北農業研究センター内にある戦時中航空燃料の原料として松ヤニ採取のために傷つけられた赤松並木、青山の旧騎兵第三旅団覆馬場などを見学。

被爆者とともに核兵器のない平和で公正な世界を - 2025年原水禁世界大会参加報告 -

核兵器廃絶を求める運動を大きく広げ行動しようと、広島・長崎で原水爆禁止世界大会が開催され、現地とオンライン視聴合わせ、1万人以上が参加しました。岩手からは、県原水協代表団として、広島集会に32名が参加しました。

集会では、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協などの呼び掛けに応え、ヒロシマ・ナガサキの「被爆の実相」を広めること、「核抑止論」の克服と「核兵器禁止条約」への参加国の拡大を求めること等が確認されました。

参加者からは、以下のような感想(抜粋)が寄せられました。

● 被爆者の証言を聞く中で、核兵器がもたらす破壊の恐ろしさと命の尊さを改めて実感した。また、ロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルによるガザ区の攻撃といった、今も続く戦争の現実には多くの関心が寄せられていた。抑止という名の下に暴力が正当化される世界に疑問を感じた。私達若い世代が声を上げ、非核・非戦の未来を作る責任があると痛感した。広島で平和の大切さを学び、これから何ができるのかを考え続けたい。



● 改めて戦争の悲惨さと核兵器の恐ろしさを実感した。91歳にして戦争について語り始めた本谷量治さんのように、長い間戦争の話を避けてきた方、経験した恐怖で多くを語りたくない方もいる中、やはり私たちにできるのは、その体験談を後世に残すことだと感じました。また、世界各国からの参加者を見て、核廃絶を訴える人がこれだけ多いということを実感しました。それだけ、核兵器はあってはならないと世界中の人が感じているということを目の当たりにできました。

● 戦争に対する関心はありましたが、“日本は負けた 戦時中は大変だった”程度の理解でした。しかし、戦争は二度と起こしてはならない。核兵器はあってはならないと強く認識することができました。戦争を無くしたいという思いで歌を作った小学生、戦争の恐ろしさを伝えたいという思いで絵を描いた高校生・大学生がいる中で、日本はずっと平和なのだという根拠のない自信をもっていた自分の間違いに気づかされました。

(岩手自治労連 菊池)

コラム = -パレスチナ国家承認の方針 英首相 イスラエルに圧力 ガザ停戦など要求-

【ロンドン、カイロ=時事 ‘25・7・31付けしんぶん赤旗】…スターマー英首相は29日、パレスチナ自治区ガザでの「悲惨な状況終わらせるための実質的な措置」をイスラエルが講じなければ、9月にパレスチナを国家承認すると発表しました。パレスチナを国家承認する方針を示したのは、主要7カ国(G7)ではフランスに次いで2カ国目。ガザで死者が6万人を超える中、イスラム組織ハマスとの掃討作戦を続けられるイスラエルのネタニヤフ政権に対し、スターマー氏が圧力を強めた形です。…

【ワシントン=洞口昇幸】…開催されている同「閣僚級国際会合」はフランスとサウジアラビアの共催。報道によると、サウジアラビアのファイサル外相は同日、作業部会の「ニューヨーク宣言」と題された文書を、9月の国連総会の会期末までに支持するよう国連加盟国に呼びかけました。同宣言は7ページの文書で、フランスとサウジアラビアに加え、日本を含む15カ国、EU、アラブ連盟が起草。…同趣旨の報道が日本国内に溢れました。

さあーッ、舞台は出来ました。日本政府は「具体的な外交行動」を行うべきです。同「ニューヨーク宣言」の起草者の一員になりました。「平和」の国民運動を行っている我々も、日本政府に「具体的な外交行動」を執るよう求める必要があります。

(T)

「9月の岩手の会街宣行動」9日(火)12:30~13:00 盛岡市大通・野村証券前

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください!